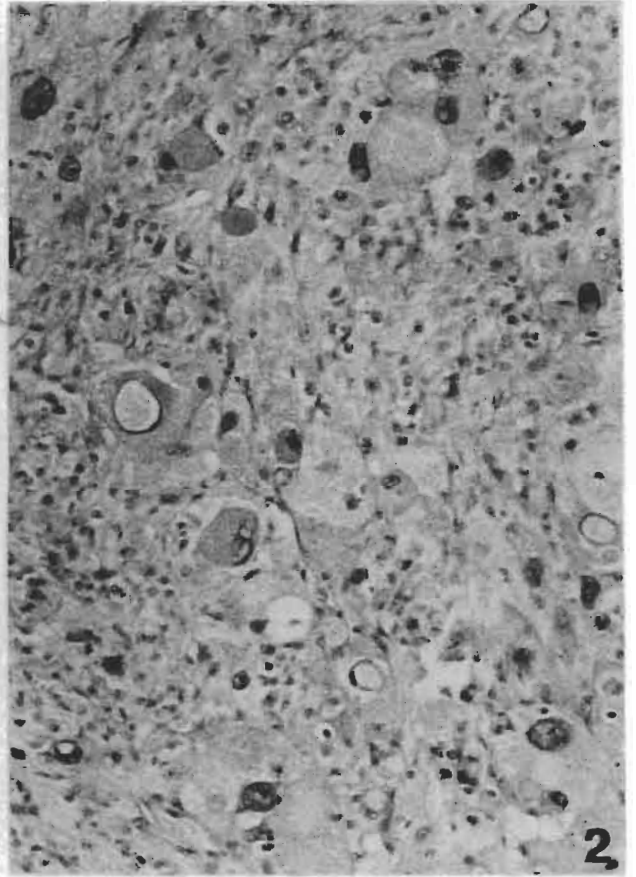


セキセイインコの皮膚の腫瘍

東京農工大学家畜病理学教室出題 第29回獣医病理学研修会標本No.507



動物：セキセイインコ，雄，3歳。

臨床的事項：某開業獣医師により，左脚外側部の皮膚にみられた直径2cmの球状腫瘍が外科的に摘出された(1988年7月)。摘出手術は腫瘍が有柄であったので至って容易であった。皮膚と共に摘出された腫瘍は摘出手術直前のセキセイインコの外景写真と共に当教室に送付されてきた。現在，当セキセイインコは健在で，手術部位，その他に何等異常を認めていないとのことである。

腫瘍の肉眼所見：良く限局された腫瘍は皮下に存在し，腫瘍表面の皮膚には羽毛は見られず，有柄部に数本の羽毛を残しているのみであった。表皮は緊張し，やや黄色を帯び，比較的硬固感があった。しかし，腫瘍切断時及びその断面において石灰沈着を疑うような所見はみられなかった。断面では表層の一部に小規模の潰瘍が認められ，出血巣と思われる部分があった。しかし断面は乳白色で一様に充実した実質組織の様相を呈し，硬固感を示しながら僅かに弾力性があった。

組織所見：腫瘍の表面は羽軸を含むいくつかの羽包を持つ伸展した表皮により覆われていたが，表皮の一部には

損傷，出血を伴っていた。腫瘍組織表層は小さいし細胞静脈及び平滑筋束がみられたが，深部には多形性を示す細胞が密在し，それらは充実性に増殖していた(写真1，HE)。細胞の大きさは赤血球の2倍ほどのものより，核の径が100ミクロンを越え，あるいは多形を有する巨細胞に至るものまで大小不同で，各々の細胞は混在あるいは各々が小集団を形成していた。小型の細胞には核クロマチンが豊富で，時折核分裂像が認められた。大型細胞の中には核内に大きな空胞を持つもの，広い領域を有する細胞質が顆粒状物質を満たしたもの，泡沫状を示したもの，淡明希薄の染色状態を示すものなど様々であった。核小体は不明瞭であったが，一部細胞では極めて明瞭で大きなものも存在した(写真2，HE)。特徴的所見として細胞質に富む大型の細胞集団部位ではズーダンIII染色で橙黄色(脂肪)及び，ニールブルー染色で異調染色(コレステリンエステル)を示す部位とがあった。

診断：セキセイインコの皮膚における黄色腫(標本中に褐色色素保有細胞がみられ，黒色腫とする意見があった)。